

G7 香川・高松情報通信大臣会合開催記念 K-MIX+利活用推進フェアに参加

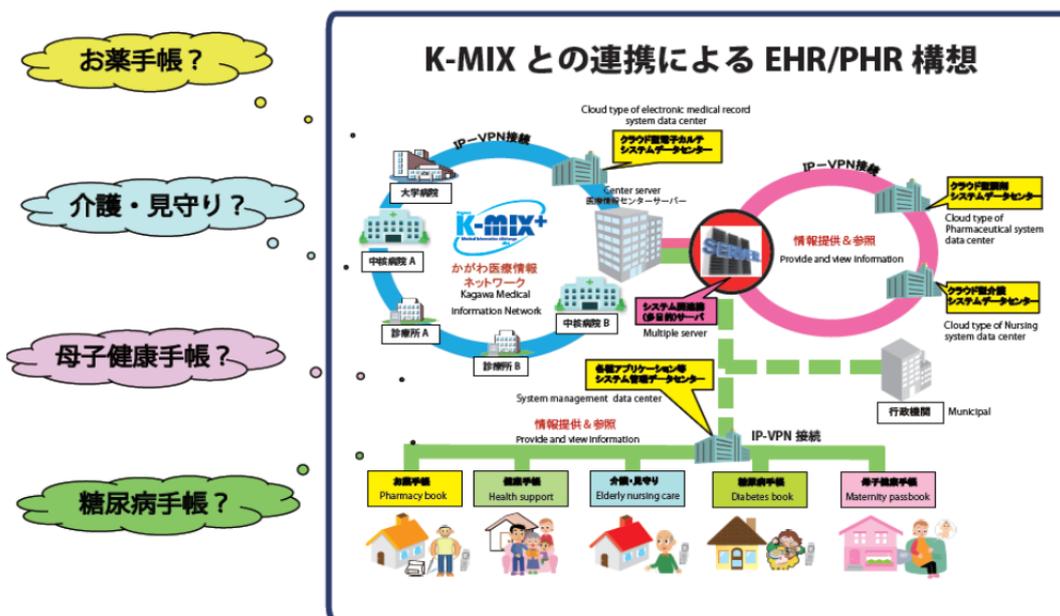
樽松 八平

平成 28 年 4 月 29 日及び 30 日の 2 日間、G7 情報通信大臣会合が、美しい自然に恵まれ、ICT を利用した全県的な遠隔医療ネットワークを導入するなど、情報通信分野の先進的な取組が行われている香川県高松市において開催された。大臣会合では IoT や AI などの新たな ICT の普及する社会について議論が行われ、あらゆる人やモノがグローバルにつながる「デジタル連結世界」の実現に向けた考え方が取りまとめられた。この会合の開催を通じて、地方創生に ICT の貢献が一層期待される。

同時開催されたサイドイベントとして、圧倒的な臨場感のある 8 K スーパーハイビジョン、言葉の壁をなくす多言語自動翻訳技術、移動の壁をなくす ITS 技術、接続の壁をなくすワイヤレス技術、情報の壁をなくす技術、ロボットを使った介護・見守り技術、医療 ICT 技術などの展示及び技術紹介が実施された。

この大臣会合を記念し、4 月 28 日～30 日の 3 日間、「K-mix+（香川医療情報ネットワーク）利活用推進フェア」が国際会議場隣の高松シンボルタワー3階「かがわプラザ」にて開催され、26 の企業・団体が少子高齢化社会が目の前に近づいている医療・福祉・介護の姿を展示し、会合を盛り立てた。香川県では医療機関をつなぐ連携ネットワークを構築したことにより、地域住民の診断情報（カルテ・画像など）と医療資源（人的資源、医療機器）の共有が可能となり、お薬手帳、介護・見守り、母子健康手帳、糖尿病手帳などの地域完結型医療を目指している。

BHN は香川大学及び地元企業と連携し、APT 資金による周産期医療システムの海外展開と医療 ICT に関する人材研修などで協力関係を築いてきたことから、海外支援活動の紹介を行うと共に、日本遠隔医療学会から日本における活動状況の紹介を行った。



お薬手帳？

介護・見守り？

母子健康手帳？

糖尿病手帳？

G 7 香川・高松通信大臣会合開催記念「K-MIX 利活用推進フェア」

展示協力企業・団体	出展内容
富士通（株）	K-MIX+、クラウド型電子カルテシステム
パナソニック ヘルスケア（株）	診療所用医事一体型電子カルテ Medicom- HRⅢ
シスメックス（株）	感染制御支援システム La-vietal IS
（株）テクノアスカ	予防接種管理システム 電子母子健康手帳
インテル（株）	電子母子健康手帳システム
日本マイクロソフト（株）	
（株）NTTドコモ	K-MIX+と連携した妊婦手帳アプリ
（株）博報堂 DYメディアパートナーズ	
一般社団法人 香川県薬剤師会	香川県薬剤情報電子化ネットワーク
（株）ヘルスケアレイシヨンス	地域医療介護連携システム CoEss
（株）CEK	訪問看護・訪問リハ・訪問介護業務支援システム 「Carelux1」
一般社団法人 日本遠隔医療学会	日本遠隔医療学会の紹介
NPO 法人 医療福祉クラウド協会	医療福祉クラウドと PHR システムによるデータ連携
メロディ・インターナショナル（株）	母子健康管理プラットフォーム「Melody i」
（株）ブイキューブ	ドクターコムを利用したオリーブナースの活動
オムロン ヘルスケア（株）	健康支援システム
日本光電四国（株）	地域医療連携対応 MFER ステーション、心電図
国立研究開発法人 産業技術総合研究所四国センター	歩き遍路の身体的・心理的影響 地域資源の活用による健幸社会の実現に向けて
一般社団法人 香川県医師会	K-MIX プラスの紹介
FA システムエンジニアリング（株）	高精細 3D モニタ
福島県立医科大学（朝日システム （株））	ポータブル電子カルテシステム
獨協医科大学	コミュニケーションロボット
岡山大学	ネットワーク対応型生体情報監視システム 「メディカルおだやかタイム」

認定 NPO 法人 BHN テレコム支援協議会	海外支援活動の紹介
NPO 法人 e-HCIK	海外展開事業（JICA 草の根事業等）の紹介



「K-MIX 利活用推進フェア」



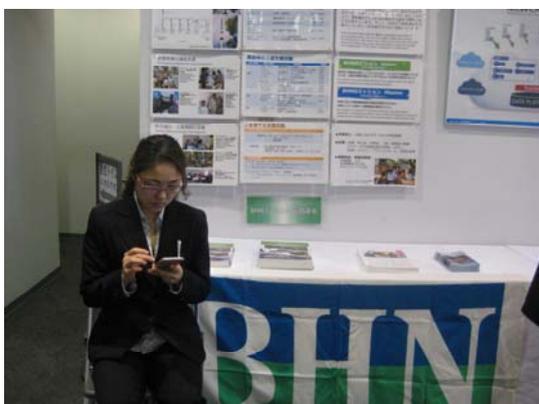
母子健康管理プラットフォーム「Melody i」



高精細 3D モニタ（遠隔医療教育）



K-MIX+と連携した妊婦手帳アプリ



BHN 展示ブース



コミュニケーションロボットと会話する坂田先生



日本遠隔医療学会の展示ブース



オリブナースで医療支援する原教授

ICT は、医療、教育等の様々なセクターに影響を及ぼしながら、グローバル経済のあらゆる側面に浸透してきている。特に、地方創生を促進するにはテレワークも含めた就労支援、遠隔医療、遠隔教育の3本柱を整える必要がある。今回の高松での医療フェアはその一端を実現できる各種技術が一堂に集まり、これ等の連携が実現できれば理想的である。また、これ等の医療ICT技術は国内だけでなくアジア諸国でのデジタルデバイド解消にも参考となる。

貧困と飢餓、保健医療、児童のオンライン上での保護、高齢化社会、教育、減災と防災等の分野において、遠隔医療が貢献できると考えられる。展示に参加された企業と協力して、具体的な成功事例を日本国内への横展開のみならず、世界中の他の国と共有し、日本の技術のグローバル展開を実現する良いシナリオが描けたこと、出展各社との人的交流が出来たことは有意義なフェアであった。

最後になりますが、本フェア実現に向け、香川県、香川医師会、香川大学の原量宏教授、NPO法人e-HCIK等の皆様の努力に感謝申し上げます。